



1:9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。

1:10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。

1:11 この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

1:13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

1:15 ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである。』と私が言ったのは、この方のことです。」

1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。

1:17 というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。

1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

まったと思われませんが、それ以前に神様が意志と目的を持って、全てを御計画なさっていました。この神様の御人格そのものがギリシャ語で言うロゴスであり、日本語ではこれを「ことば」と訳しました。

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」「ことばは神であった」「すべてのものは、この方によって造られた。」とありますから、ことばであられるイエス様が神であり創造主であることが明確です。そもそもイエス様は御父と同一であられるからです。

このイエス様を証したのが、バプテスマのヨハネですが、多くの人がそれを受け入れなかったことが分ります。「世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。…受け入れなかった。」とあるとおりです。しかし私たちは「この方を受け入れた人々」です。このクリスマス時期に、受け入れなかった人々と同じ日々を送るのではなく、神の子どもとされた特権を感謝しつつ、信じた者の行いをしましょう。

「ことばが人と」なるとは、神の本質がイエス・キリストに宿っているということです。永遠無限の存在が有限なる世界にとどまるというのは、あり得ないことですが、神様の全能がそれを実現したのです。それだけでなく、「この方は恵みとまことに満ちておられた」とあります。そのご人格が神を表わしておられたことが分ります。

そして、モーセを通して与えられた律法を全うしたことは当然ですが、それ以上に恵みとまことを実現されました。恵とは罪の赦しであり、まこととは救いの約束の実現です。

イエス様のすばらしさは、このように日常の言葉では言い表すのが不可能なほど偉大なものです。私たちは、言葉や定義ではなく、体験する必要があります。ここにあらわされているイエス様のすばらしさを体験することを、主に願い求めてゆきましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

